科目ナンバー：(IC)ABR121J		
国際交流（タイ）		
2 単位	1 年次	コーディネーター 和田 悟
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 タイでの派遣研修を伴う国際交流プログラムです。「国際交流」というタイトルで戻込みする必要はありません。東南アジアの同世代の学生と「日本語」での交流を中心としつつ、多様性を認識し、互いの文化を尊重する態度を養うことを目指します。日本と異なる文化社会を体験することは、自国の文化への理解を深めることにもなります。 派遣研修においては、現地の大学でタイの学生と話し合いテーマを決めて、合同で調査・発表を行います。日本への長期留学や日本語を活かす進路への明確な目的意識をもって勉学に取り組むタイの学生との交流は、参加学生自身の学びへの意欲にもつながるでしょう。 【到達目標】 この授業の到達目標は、異なる文化・社会を体験することで、多様性への認識、互いの文化を尊重する態度を養うこと、海外で働くことを自身のキャリアイメージとして捉えられるようになることである。		
2. 授業内容 【事前学習 (1)】 5月中旬または下旬の土曜を予定 第1回 イントロダクション（プログラムの概要・顔合わせ） 第2回 ASEANと日本について 【事前学習 (2)】 8月上旬を予定 第3回 タイの文化と研修先について 第4回 渡航・滞在時の留意点・安全対策について 【派遣研修（バンコク）】 8月下旬～9月上旬（予定：8/26～9/9） 第10回 タイの社会・文化についての講義・実習 第11回 日タイの相違について現地調査・発表（タイ人学生とのグループワーク）(1) 第12回 日タイの相違について現地調査・発表（タイ人学生とのグループワーク）(2) 第13回 タイ文化社会の見学 【事後学習】 第14回 研修成果報告（10月上旬の土曜を予定） ※ 派遣期間中の項目は、便宜上、主なプログラムを時間数に応じて各回に振り分けたものです。		
3. 履修上の注意 8月下旬から9月上旬（8/28（月）～9/10（日））に約2週間のタイ派遣研修を行う予定です。単位修得のためには、この研修への参加が必須です。ただし、新型コロナウイルス感染症や政情不安などの安全上の問題で派遣が中止されるときには、オンラインでの交流・研修に切り替える場合があります。タイ側の入国手続き上、新型コロナの予防接種の接種証明書などが必要となる場合があります。研修費用や日程、旅行保険への加入などの詳細は、別途ホームページなどで公開される、募集要項を参照してください（ https://www.meiji.ac.jp/infocom/office/shorttermexchange.html ）。 研修費については学部からの補助が受けられる予定です。実際の研修費や助成金については、別途募集要項を参照してください。 なお、履修申し込みなどは、通常の科目と異なり別途募集します。4月上旬のガイダンスなどに注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業と関係する授業としては、「新興国事情」「クリエイティブ・コミュニケーション（タイと歴史）」などがあります。この授業における主な交流相手はタイで日本語を学ぶ学生です。交流は主に「日本語」を使います。「タイ語」の履修者は実践の機会になりますから、是非参加してもらいたと思います。 タイとの学生交流では、グループでプレゼンテーションを準備するなど事前準備が必要な場合があります。充実した交流にするためにきちんと準備した上で参加してください。 また、交流経験から得たことなどを発表する報告会があります。		
5. 教科書 とくにありません。		
6. 参考書 佐原隆幸・徳永達巳『国際協力 アクティブ・ラーニング』弘文堂 川島博之『歴史と人口から読み解く 東南アジア』扶桑社新書 岩崎育夫『入門 東南アジア近現代史』講談社現代新書 柿崎 一郎『物語タイの歴史』中公新書ほか		
7. 課題に対するフィードバックの方法 この授業は少人数で、引率渡航もあり、教員・学生との接触が緊密に行われます。さまざまなフィードバックは電子メールまたはLINEなどのSNSを利用し適宜行う予定です。		
8. 成績評価の方法 事前学習における活動状況 30% 派遣中の学習取り組み 50% 研修成果報告 および レポート 20%		
9. その他 履修者の定員は20名程度とし、面接による選考を行う。 感染症の蔓延、政変・大規模災害など安全上の問題があり、渡航が不可能な場合には、派遣部分の学習について日本における講義・演習に代える場合がある。		

科目ナンバー：(IC)ABR121J		
国際交流（メディア）		
2 単位	1 年次	コーディネーター 横田 貴之
1. 授業の概要・到達目標 テレビは社会を覗きこむ窓ではなく、番組の制作者が混沌とした社会からネタを探し出し、わかりやすいよう再構成、視聴者に提示しているものである。海外でのロケ体験を通して、視聴者でなく取材者・制作者の視点からメディアリテラシーを学ぶとともに、国際感覚を身につける。 少人数のグループに分かれて、それぞれのグループで共通テーマのもと渡航先で取材、VTR制作。さらに帰国後、このVTRを使ってフジテレビの専用スタジオで番組制作（疑似生放送）を行う。一連の制作過程を通じてテレビの特性、限界、課題、可能性などを学び、メディアを見る目を養う。またこのプログラムでは海外を舞台に英語を使ってロケ取材するという高いハードルが設定されているが、それを乗り越える積極性とクリエイティビティを養うこともこのプログラムの目的である。		
2. 授業内容 (1) 事前学習 1：メディアリテラシー概論（テレビの特性を分析する） (2) 事前学習 2：ロケ取材の準備（取材テーマを考え、リサーチする） (3) 事前学習 3：ロケ取材の準備（構成案を考える） (4) 現地ロケ体験（取材アポ取り、演出プラン） (5) 現地ロケ体験（リサーチ、ロケハン） (6) 現地ロケ体験（取材 第1取材先） (7) 現地ロケ体験（取材 第2取材先） (8) 現地ロケ体験（取材 レポート、街録など） (9) 現地ロケ体験（取材 追加取材） (10) 事後学習 1：取材したVTR素材から構成原稿、オフラインシート作成（第1稿提出） (11) 事後学習 2：取材したVTR素材から構成原稿、オフラインシート作成（最終稿提出） (12) 事後学習 3：スタジオ展開を考える (13) 専用スタジオ（フジテレビ湾岸スタジオ内）で番組を制作する (14) 番組プレビュー（フジテレビ湾岸スタジオ内）、討論 *講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 プログラムの詳細（渡航先や実施日程等）は募集要項を確認すること。 ワークショップ的なプログラムのため、積極的かつ主体的な授業への参加が求められる。実施は2026年2月～3月。東京での事前学習、渡航先でのロケ体験（8日間予定）、東京での事後学習（フジテレビ専用スタジオでの番組制作体験含む）を予定しているため、全行程に参加できる者のみ事前申込方法に沿って手続きをすること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ニュース番組、情報番組などを意識的に見ることを推奨する。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜制作物対して行います。		
8. 成績評価の方法 授業への積極的かつ主体的な参加度を評価		
9. その他		